

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にさせていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目次

| | |
|---|---|
| ○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要 | 1 |
| ○ 応募地区一覧 | 5 |
| ○ 応募地区位置図 | 6 |
| ○ 応募地区の取組事例 | 7 |

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

- ★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。
- ★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

- ★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。
- ★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす

ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

- ★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。
- ★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭

小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

- ★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。
- ★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉

ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

- ★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。
- ★バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁

藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

- ★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。
- ★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展

海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

岡山県玉野市
富永 邦彦

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを獲る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取り組む。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

広島県三原市
株式会社八天堂ファーム(八天堂ぶどう園)

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市のぶどう園を再生
令和5年 新ブランド「果実なくリーむパン」



広島県三原市
広島みはらプリンプロジェクト実行委員会

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



鳥取県境港市
さかいみなと中野港漁村市実行委員会

- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

島根県安来市
シバザクラの会

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

岡山県備前市
一般社団法人みんなでびぜん

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

広島県尾道市

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしているジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と共同開催したジュースの試飲会

山口県岩国市

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

徳島県 三好市 美馬市 美馬郡つるぎ町 三好郡東みよし町

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業ツチアゲ体験



地元農家との交流(餅つき体験)

徳島県鳴門市

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント開催



棚田米やゆこうを使った酒造り

香川県さぬき市 一般社団法人さぬき市津田地区
まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確認する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に収穫作業



地元高知産ブドウを使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTSO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区(者) 一覧 (愛媛県)

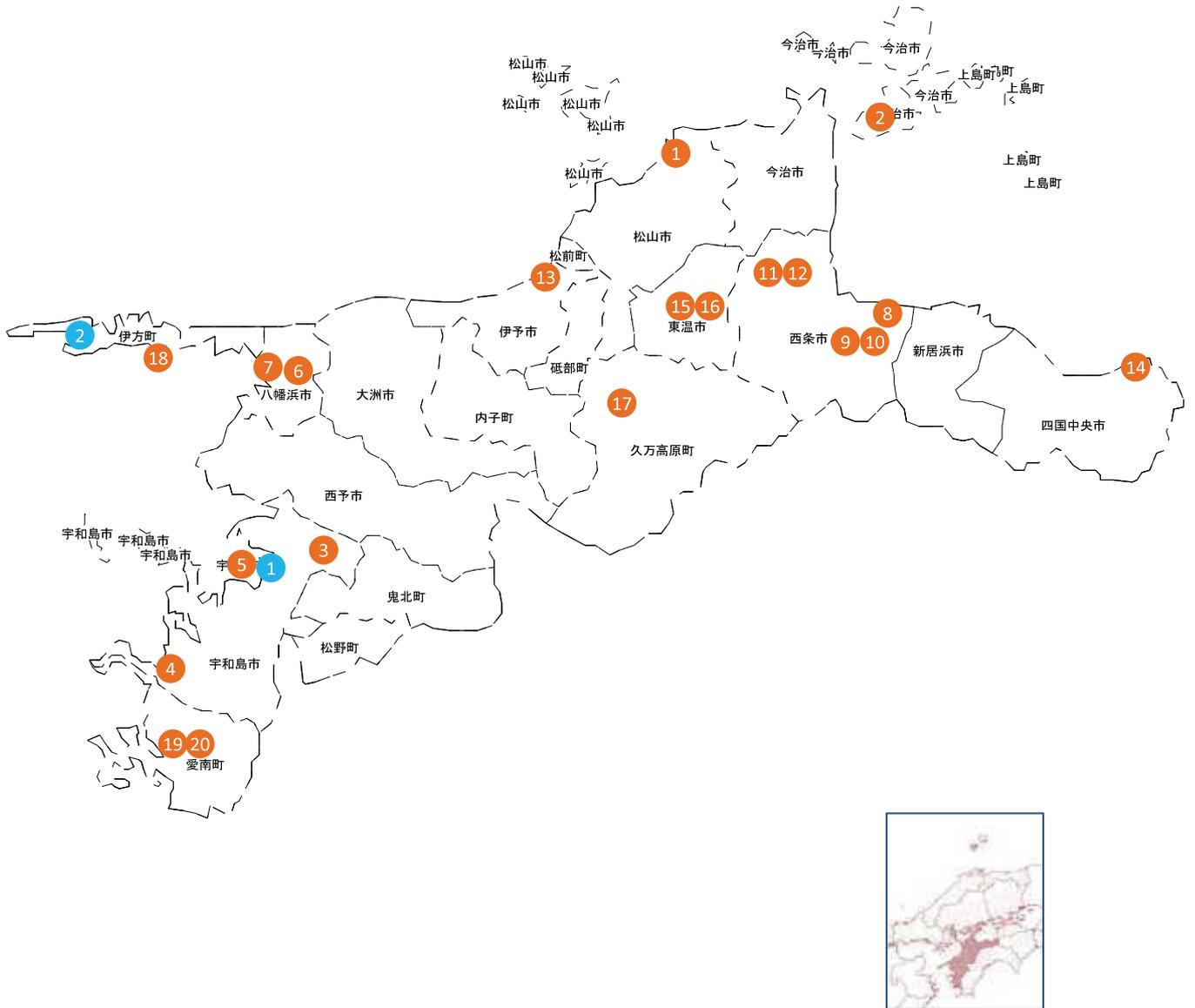
| No. | 選定地区 | 部門 | 市町村 | 地区名/氏名 | 該当する取り組み | | |
|-----|---|----|-------|--|----------|--------|---------------|
| ① | | 団体 | 松山市 | きりぬき | 農業 | 若者の活躍 | 企業等の連携 |
| ② | | 団体 | 今治市 | ポパイズクラブ | 6次産業化 | 移住・定住 | 高齢者の活躍 |
| ③ | 奨励賞 | 団体 | 宇和島市 | 愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部×みまプロジェクト 「みまブンブン室プロジェクト」 | 6次産業化 | 荒廃農地対策 | 学生・若者の活躍 |
| ④ |  | 団体 | 宇和島市 | 企業組合 津島あぐり工房「あすも」 | 6次産業化 | 地産地消 | 伝統の継承 |
| ⑤ | | 個人 | 宇和島市 | 水野 裕之 | 地産地消 | 移住・定住 | 農村環境・ 景観保全 |
| ⑥ | | 団体 | 八幡浜市 | 愛媛県立八幡浜高等学校 商業研究部A★KIND | 学生・若者の活躍 | - | - |
| ⑦ | 奨励賞 | 団体 | 八幡浜市 | ダルメイン世界マーマレードアワード& フェスティバル日本大会実行委員会 | 6次産業化 | - | - |
| ⑧ | | 団体 | 西条市 | NPO法人 うちぬき21プロジェクト 千町棚田チーム | 農業 | 棚田保全 | 環境保全 |
| ⑨ | | 団体 | 西条市 | 愛媛県立西条農業高等学校 | 農業 | スマート農業 | 都市農業 |
| ⑩ | | 団体 | 西条市 | 愛媛県立西条農業高等学校 石鎚黒茶SELプロジェクトチーム | 農業 | 6次産業化 | 伝統の継承 |
| ⑪ | | 団体 | 西条市 | 愛媛県立丹原高等学校 | 農産物輸出 | 地域との連携 | 学生・若者の活躍 |
| ⑫ |  | 団体 | 西条市 | 愛媛県立丹原高等学校 草花班 | 関係人口の創出 | 地域との連携 | 学生・若者の活躍 |
| ⑬ | | 団体 | 伊予市 | 愛媛県立伊予農業高等学校 生活科学科食物班 | 企業との連携 | 地域との連携 | 学生・若者の活躍 |
| ⑭ | | 団体 | 四国中央市 | 特定非営利活動法人いりこ倶楽部 | 水産業 | 農福連携 | 食育・教育 |
| ⑮ | | 団体 | 東温市 | 奥瀬川創生会議 | 荒廃農地対策 | 棚田保全 | 高齢者の活躍 |
| ⑯ | | 個人 | 東温市 | 森田 将史 | 荒廃農地対策 | 地産地消 | 6次産業化 |
| ⑰ | | 団体 | 久万高原町 | 一般社団法人ゆりラボ内ホップ部 | 地域資源の創出 | 異業種連携 | 地域の活力創造 |
| ⑱ |  | 団体 | 伊方町 | 朝日共販株式会社 | 6次産業化 | 環境保全 | 食育・教育 |
| ⑲ | | 団体 | 愛南町 | 愛媛県立南宇和高等学校 農業科 果樹専攻班 | 農業 | 輸出 | 学生・若者の活躍 |
| ⑳ | | 団体 | 愛南町 | 愛媛県立南宇和高等学校 農業クラブ | 6次産業化 | 企業との連携 | 学生・若者の活躍 |

第10回記念賞応募地区

| No. | 部門 | 市町村 | 地区名 | 過去の選定実績 |
|-----|----|------|------------------------------------|--------------------|
| ① | 団体 | 宇和島市 | 愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」 | 令和元年度(第6回)選定 |
| ② | 団体 | 伊方町 | 愛媛県立三崎高等学校 | 令和3年度(第8回)選定 (特別賞) |

応募地区（者）位置図（愛媛県）

※ 青は第10回記念賞応募地区



きりぬき

～価値を再定義～



きりぬきメンバー



老舗酒造会社と松山大学とのコラボ商品開発

経緯

- みかん農家でアルバイトをしていた際、規格外品として非常に安く売られたり、山に廃棄されたりするみかんを見て違和感を覚え規格外みかんの販売を行い、農家に売り上げを還元することとした。
- たくさんの農家の役に立ちたいと思い、後輩達の支援のもと、団体を立ち上げる。

取組内容

- 見た目を気にしない消費者や加工を目的とする業者へ規格外品を販売。
- みかん農家や自治体、大学と連携し、みかんの選別体験会や講演会、販売イベントなどを積極的に行う。
- 地域の既存産業ともコラボをおこない、柑橘のリキュール開発や伊予柑のクラフトビール開発にも携わる。

活動の効果

- 発送する際の作業は北条地域に住む高齢者や大学生を雇用して地域活性化。
- 非常に少なかった農作物の新規販路の一つとして農家さんに選択していただける。
- SNSフォロワー数も増え、出荷数量、ジュース販売数量の増加に繋がっている。
- 地元の小学生にみかんの勉強会を開催し食育活動にも貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

『価値を再定義』というテーマのもと、インターネット販売、およびジュースへの加工、販売を通して柑橘農家全体の収益の底上げを目標に活動していきます。

住所・電話番号・SNS等

松山市土手内100-11 Tel:080-5660-6563

ポパイズクラブ

～始めれば夢広がる、定年組の挑戦！～



平均年齢70歳を超えるメンバー



人気の自家製オリーブオイルと塩漬け

経緯

○定年退職を迎えて地元大島に帰ると、過疎化による空き家や空き地の広がりを憂いて、寂しさを感じていた。地域のためになる何かをしたいとの思いで「地域を元気にするには産業を興すべき」と一念発起し、同じ志を持つ10人で「愛媛県初のオリーブ産地づくり」に取り組むことになった。

取組内容

- 現在10人で活動し、作業スケジュールの管理や経理、営業等は共同代表の2人が担当するが、病虫害防除や施肥、収穫、搾油、瓶詰め作業等は全員で行う。
- 地域の遊休農地を借り受け、1.6haの園地を整備し、600本のオリーブを育てている。
- 地域の若者を招いた収穫体験会等を毎年開催するなど、幅広い世代、分野との交流によるオリーブ栽培の魅力発信を行っている。

活動の効果

- 令和4年3月に栽培マニュアルを作成し配布したことで、生産者数や栽培面積が着実に増加し、現在は今治市の陸地部まで面積が拡大した。
- 商品化したオリーブオイルと塩漬けは有名になり、市内各所の産直施設や量販店でお土産の定番として販売されている。
- グループ「しまなみみんなのディッシュ」を結成し、地元マルシェでの共同ブースや観光施設で連携販売に取り組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

開始4～5年は収穫量がほぼ皆無で苦しかったが、現在ではオリーブでイベントを行うと大島に人が集まるようになり、県内外からの観光客や地元の子ども達を寄せる観光スポットにもなった。地域を思う気持ちがあれば、挑戦するのに遅すぎるなんてない。

住所・電話番号・SNS等

今治市吉海町本庄1007 Tel:090-8977-2667

奨励賞

 えひめけんりつきたうわこうとうがっこうみまぶんこうちいきじょうほう
愛媛県立北宇和高等学校三間分校地域情報ビジネス部

 ×
 みまプロジェクト「みまブンブン室プロジェクト」

～みまブンブン室から農山村を元気に！～



ライスバーガーを商品開発、マルシェで販売



古民家の利活用を地域、大学生と協議

経緯

- 令和3年度より「北宇和高校三間分校」に再編され、現在生徒数は53名の小規模校になっている。そのような中、三間町を盛り上げるために構成されたのが「三間分校地域情報ビジネス部」の高校生(12名)と、三間町の活性化を行う民間グループ「みまプロジェクト(農家・酒屋・団体職員等5名)」の、2チームのコラボにより設立。

取組内容

- 地元特産の三間米や味噌・宇和島市日振島で採取した塩・地元名産タケノコ・校内栽培の大葉等、原材料の地元産・自家製ソースの「ライスバーガー」を開発。
- 生産者や商店の要望を聞き、農山村ビジネスインターンシップとして高校生を派遣、仕事内容や地域課題の実情を体験。
- 農家古民家を「三間分校」の「みま分」と「ブンブン室(分室)」を掛け合わせた拠点として構築し、農山村を盛り上げる場を目指す。

活動の効果

- 販売イベントへの参加により新聞、テレビ、ラジオ等のメディアにも多数取り上げられ、地域PRが進み、市民等からの問い合わせも増加するなど地域の活性化に貢献。
- 農山村ビジネスインターンシップを実施し、若者等が農山村を知り、人材育成に繋げることで地域社会に還元。
- 古民家の利活用を考え、現在、名城大学で建築を目指す学生や三間分校・近隣の高校、地域住民等が体制構築を目指して活動中。

応募団体からのアピール・メッセージ

ライスバーガー販売により、地域PRが進み、活性化に貢献できている。古民家活用では、地域の方と協議をし、地域と共に活動できる場づくりを目指し、高齢化、人材不足が進む地域の課題解決に向けて、地域社会に還元できるシステム整備をしていく。

住所・電話番号・SNS等

宇和島市三間町戸雁764-3 Tel:0895-58-2031 <https://www.instagram.com/mimabunkou>


 きぎょうくみあい つしま こうぼう
企業組合 津島あぐり工房「あすも」

～日々笑顔で暮らすお手伝い「あすも」～



人と食、人と地域、食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家レストラン部門「あすも」

経緯

- 愛媛県宇和島市津島町内の農家女性たちで、次世代に地域の伝統的な食文化や伝統の味を伝え、“農家・漁家女性の経済的自立”を目標として活動を開始。
- 「家庭の味」「ふるさとの味」を残し、「地域食文化」を守り育てることが私たちの使命であるとの思いから、農林水産業の副業として地産地消の活動をスタートさせた。

取組内容

- 地域の豊かな農水産物を活用した加工品・惣菜などの製造販売。
- 農家レストラン部門「あすも」をオープン。地元の消費者と交流を深め、地元食材の消費拡大につなげる取組とともに、地域の活性化に貢献し地域の問題を解決しながら、地域に愛され、親しまれる店づくりを目指す。
- 「ふれあいモーニング(毎月1回開催)」を地域のコミュニティの場所として提供。

活動の効果

- 加工品の開発や販売促進を進めることで、地域農産物の需要拡大に貢献。
- 「あすも」が地域のコミュニティの場所として確立され、1日100人以上の地域の人たちが来店。地域の人たちの問題解決の場所として、また、居場所にもなっている。
- 行政や社会福祉協議会等とも連携を強化しながら、関係人口の増大を図ることにもつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

鯛の中骨残さを活用したエシカルフーズ「鯛さつま」を地元の企業組合と共同開発し、食品ロス削減に取り組み、限りある地域の海洋資源のSDGsへの取組などの支援も行っている。

住所・電話番号・SNS等

宇和島市津島町浦知380 Tel:0895-49-1317

みずの ひろゆき
水野 裕之

～誰もが無理だと言われた島の資源を使って～



店で撮った夫婦写真



島ウェディング事業

経緯

○前職の星野リゾートに勤めていた時、全国転勤を経て、改めて日本の魅力を体感した。日本には四季・景色・食材それぞれに魅力がある。それらを人を介して体験することで、そこにはないものになる。そんな場所を自身でも作りたいたいと思い、家族で島へ移住を決断。

取組内容

- 島で唯一の地産地消飲食店を開業。
- 島へ繰り出すピクニックアクティビティ。出発前には、島の軽い歴史、おすすめスポット、過ごし方、等を話すことで、自身で来島しただけではわからない島の魅力を演出。
- 島を旅するウェディング事業。山、海、船、みかん畑、網置き場、密集した家々などお気に入りの場所でウェディングフォト。人の人生に寄り添った事業を展開。

活動の効果

- 島内外の人の交流が生まれるとともに、島民の会合や同窓会などが開かれ喜ばれている。また、島の食材を使用することで経済循環が生まれている。
- 島民の方の養殖魚を使用することで認知度向上。
- 島柑橘の摘果を料理に活用。本来捨ててしまう、摘果みかんを使用することで、新たな価値を創出。

応募団体からのアピール・メッセージ

「古いと新しい」「日常と非日常」が交じり合う体験ができる、唯一無二のこの場所で、より一層この島が好きになってもらえるように取り組みます。

住所・電話番号・SNS等

宇和島市本九島1389 Tel:090-2822-3918

～デザイン思考によるオレンジでアレンジ！～



地元イベントでのジェラート販売活動



開発商品：柑橘香る真鯛の和風パスタソース

経緯

- 平成12年から「バーチャルカンパニーA★KIND（アキンド）」の名称で活動。
- 高校生の視点から地域貢献活動に取り組み、地元特産の鯛や柑橘を使ったパスタソースやジェラートの商品を開発し、全国規模への販路拡大を実現することで多くの人たちに八幡浜の魅力を発信することを目指した。

取組内容

- 八幡浜漁協及び株式会社ミヤモトオレンジガーデンとの間で3者協定を結び、鯛と塩みかんを活用した商品開発に取り組み、和風パスタソースを商品化し販売。
- 株式会社Atriumと、樹齢130年の夏みかんやいちごなど八幡浜産のフルーツを活用した商品開発に取り組み、ジェラートを商品化し販売。
- ワークショップ、ボランティア活動など地域を盛り上げる活動に積極的に参加。

活動の効果

- 地元企業とコラボし商品開発等に取り組んだこと、また、地域活動に積極的に参加したことにより、当活動に興味を持ってもらえる関係機関も増え、イベントへの参加依頼が増加し、取組が広がってきた。
- 和風パスタソースは、クラウドファンディングを実施し、返礼品として使用したため、知名度が上昇した。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、開発商品のブラッシュアップや新パッケージの作成、商品のシリーズ化を目指し、県内・外での販売活動などを行いながら販路を拡大し、八幡浜の水産業や農業の魅力を発信していき、商品開発の研究を進めていきたい。

住所・電話番号・SNS等

八幡浜市松柏丙654 Tel:0894-22-2570

奨励賞

せかい にごほんたいかいじっこういんかい
ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会実行委員会

～マーマレードの聖地「やわたはま」へ～



第5回大会:最終審査員による審査会



出品されたマーマレード

経緯

- 英国のコンテスト創始者に、近年、日本からの出品数が増え、品質も高いことから、コンテストを日本で開催したいとの意向があることを知り、八幡浜市への誘致活動を実施。
- 令和元年に英国の国際的なマーマレードコンテストを「柑橘王国」愛媛県八幡浜市で日本初開催。

取組内容

- 第5回のマーマレードアワード(審査会)では、プロ、アマ合わせて国内は47都道府県から、海外は台湾から計1,987作品の出品があった。
- フェスティバルでは、表彰式のほか、ステージイベント、農産物加工品販売出展ブース、受賞マーマレード販売ブースなどでマーマレード・農産物をPR。

活動の効果

- 大会期間中のマーマレードの展示やイベント、ブース出店によって来場した多くの人にマーマレード、柑橘の魅力を発信した。
- 同大会で金賞を受賞された柑橘生産者の団体が企業化され、マーマレードを中心に農産物加工品を広く販売するなど、生産者という強みを生かした事業を展開。また、アマチュアの部で受賞された方々が、プロとして店舗販売・ネット販売など、事業化されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

マーマレードを通じた日本と海外との交流、日本柑橘産業の活性化をさらに推進し、マーマレードの魅力を国内外に発信するとともに、柑橘王国:愛媛県八幡浜市の柑橘及び柑橘加工品産業の育成、事業の拡大などを支援していきたい。

住所・電話番号・SNS等

八幡浜市北浜1-1-1 Tel:0894-22-3111

えぬぴーおーほうじん

せんじょうたなだ

NPO法人 うちぬき21プロジェクト 千町棚田チーム

～千町棚田から西条市の環境を守ろう～



耕作放棄地解消のためのトラクター路整備



竹灯籠を使った棚田ライトアップ

経緯

- 千町棚田は、約80ha(石組2,300枚)の農地を開拓し、稲・麦作中心の農業を行ったことに始まる。
- 近年、耕作放棄地の増加、獣害被害による石垣の崩壊が進む。
- 歴史遺産である千町棚田を農作物の栽培や石垣保存活動で知名度アップを目指し活動を開始した。

取組内容

- 耕作放棄地の解消を有機農法での稲作を中心に行った。
- 放置竹林解消のため、地元高校生と、竹林整備と伐採した竹の有効利用の研究を行った。
- 棚田オーナーや西条市民、小中学生、企業などと一緒に、農業や石垣の保存を行った。
- 棚田ライトアップや地元小学生を対象に竹灯籠製作体験を年間6回実施し、棚田の多面的機能の紹介や環境啓発活動を行った。

活動の効果

- 活動当初20aから始めた水田面積は、令和4年度には耕作放棄地や放置竹林2haを借入れ稲作、高原野菜、柚、梅の栽培、竹林整備を行い、耕作放棄地の解消に寄与した。
- 今年度は地元高校生と一緒にトラクター路の整備を行うことで、耕作放棄地解消の進捗率を上げることに繋がった。
- 竹をパウダーにし野菜畑に散布し、雑草発生の抑制や肥料としての効果の研究を行った。この活動が、地元地方新聞やメディアで紹介され、棚田の多面的機能の紹介や環境教育が図られた。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後、堂の坂棚田(愛媛県西予市)、長者の棚田(高知県仁淀川町)、貝ノ川棚田(高知県津野町)との棚田サミットを開催し、棚田保存の在り方や後継者養成の在り方について意見交換を行い、持続可能な棚田になることを図る。

住所・電話番号・SNS等

西条市西ひうち3-21 Tel:0897-58-5535

えひめけんりつさいじょうのうぎょうこうとうがっこう

愛媛県立西条農業高等学校

～GGAP取得を当たり前に！ICTで簡略化～



GGAP温室での収穫指導



効率化するために作成したアプリケーション

経緯

- 現代の農業では食品安全だけでなく環境保全、労働安全等の持続可能な農業方法の導入が必要とされており、GGAPの取得を農業高校で実施することが重要な役割を持つと判断した。
- GGAPの文書管理はとても煩雑なため、独自のアプリケーションの開発により作業の簡略化を目指した。

取組内容

- 令和4年度に取得したGGAPに準じた栽培に取り組むとともに、勉強会を実施するなどして普及活動を行った。
- GGAPの文書管理はとても煩雑で、昨年度は非常に苦労したので、今年度は本校独自のアプリケーションをFileMaker PROで作成し、文書管理及び審査準備の簡略化を実施した。

活動の効果

- 生産方法が国際基準に合致しているGGAPを取得したことで、今後もこの基準に準拠した栽培を続けることを強く意識するようになった。
- 青春時代に、農業の魅力や重要性を実感し、それを地域や社会に広める活動は、新しい学びとなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

GGAPの取得を基盤に、より環境に優しい農業技術の導入や新しい作物の試験栽培を進める。地域との連携も深化させ、共同での勉強会やワークショップを開催し、農業の新たな可能性を探求する。また、高校生の独自の視点を活かして、新しい農業マーケティングやブランド作りにも挑戦する。

住所・電話番号・SNS等

西条市福武甲2093 Tel:0897-56-3611

えひめけんりつさいじょうのうぎょうこうとうがっこう いしづちくろちゃえすいーえる

愛媛県立西条農業高等学校 石鎚黒茶SELプロジェクトチーム

～文化伝承！石鎚黒茶をつなぐ！～



在庫黒茶を利用した肥料効果の検証



在庫黒茶を利用した商品開発

経緯

- 西条市には、日本で2カ所しか生産されていない二段発酵茶の「石鎚黒茶」があるが、生産者が減少し、その伝承が危惧される状況であった。
- そのことから、行政や製造団体で構成される協議会と連携し、労働力支援や研究活動、商品開発、普及活動など、次代につなげる活動を行っている。

取組内容

- 環境工学科土木班での農業土木整備の後、農業土木班が測量を行い、食農科学科でお茶を栽培した。また、生活デザイン科で商品開発と販売活動、環境工学科造園班でワークショップ開催や寺院への展示などの普及活動を行うなど、3学科で協力し、さまざまな活動を展開した。
- 令和4年度より、黒茶を使った肥料の開発、西条農オリジナル黒茶の製造、イベント参加による普及活動の展開などを実施。

活動の効果

- 令和5年に「石鎚黒茶」の製造技術が国の重要無形民俗文化財に指定された。その記念シンポジウムが開催され、講演者として活動報告を行った。
- 製造には一定の標高が必要であるが、学校の農場施設で菌を繁殖させ、菌量を増やし発酵を促すことで、標高に関係なく黒茶の製造が可能となった。
- 労働力支援や研究活動、商品開発に加え、イベント参加などにより普及活動を行ったことにより、行政や製造団体で構成される協議会との連携が始まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今年、開催された、「石鎚黒茶の製造技術」国重要無形民俗文化財指定記念シンポジウムで活動報告を実施し、参加者に活動をアピールした。今後も普及活動を展開する。

住所・電話番号・SNS等

西条市福武甲2093 Tel:0897-56-3611

えひめけんりつたんばらこうとうがっこう

愛媛県立丹原高等学校

～丹原高校から人づくり地域づくり～



台湾研修：輸出ブドウのプロモーション販売



台湾研修：インターンシップ パン製造

経緯

- 8～9年前、農水省・文科省からGAPに取り組むよう県教委に働きかけがあり、農業教員がGAP研修を実施。
- GAP認証取得に取り組むことを通して、県や市、近隣校、地域農家との連携協働を進め、農業学習の深化と地域人材の育成、地域農業の活性化を図った。

取組内容

- 平成30年8月、日本の高校で初めてブドウのグローバルGAP認証を取得。以来、毎年台湾へ輸出している。
- 令和5年8月、台湾で、輸出ブドウのプロモーション販売と、現地企業での食品加工分野のインターンシップを実施。
- 地域への普及活動として、近隣2高校を招き、毎年2回GAP学習会を開催する外、地域農家10戸との協働で農家実習を実施。

活動の効果

- 生徒たちにとって、自分たちの手で生産したブドウを輸出し台湾で販売することは大きな喜びと自信につながった。また、海外での就労体験は貴重であり、自分や日本を見つめ直す契機となった。
- 当活動が大きな魅力となり、グローバルGAPに興味を持ち台湾研修を目当てに入学してくる生徒もいる。また、地域との協働により「地元愛」の強い人材が育っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

これまで以上に地域の農家や企業、教育機関、行政等との連携を大切にして、さらに取り組みを進めていきたい。

住所・電話番号・SNS等

西条市丹原町願連寺163 Tel:0898-68-7325



えひめけんりつたんばらこうとうがっこう くさばなはん

愛媛県立丹原高等学校 草花班

～花木を未来に サステイナブルな農業実現～



花木のPR活動



産官学民連携プロジェクト成果発表

経緯

- 西条市では、高齢化等による農業の衰退が著しく深刻なことから、海外でも人気があり軽作業で高収入の花木に着目した。
- 栽培面積は広いが安定した出荷ができていない課題があり、持続可能な花木苗生産技術を確立し、西条地域を全国的な「花木の産地」とすることを目指した。

取組内容

- 花木の中でもメラレウカとピットスポラムの苗生産が安定していないことから、穂木から発根させ、出荷に至るまでのプロセスを構築するための研究を開始。
- 一般農家でも容易に発根させられる方法を模索するとともに、各機関と連携し、生育環境による発根率の相違を調査。
- 年間20回以上実施する地域講習会で花木のPR活動を展開。

活動の効果

- 本校の菊栽培で用いる密閉挿しを応用した結果、発根率が平均19%から平均62%となった。また、径2mmの穂木が挿し木には有効であることや、メラレウカとピットスポラムの適期が異なることが判明した。
- 4地点で発根率を調査し、地域還元時に各環境下で発根可能であることを確認。
- 花木を主とした新規就農者が地域で誕生し、1年目から利益を上げることに成功。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は花木による新規就農者を増やすこと。そして鉢上げから出荷に至るまでのプロセスをマニュアル化し、地域から県内へ、そして県外へと花木を繋ぎ、地域の特産とすることを目標に、研究を継続していきたい。

住所・電話番号・SNS等

西条市丹原町願連寺163 Tel:0898-68-7325

えひめけんりついのうぎょうこうとうがっこう せいかつかがくかしょくもつはん
愛媛県立伊予農業高等学校 生活科学科食物班

～#伊予農福連携 & #地域食材PRプロジェクト～



ちいさなしあわせがみつかるカフェ



株式会社和光ワールドと連携

経緯

- 他校の閉校により、平成25年4月から伊予市で唯一の高等学校となった。
- そこで、「#伊予農福連携 & #地域食材PRプロジェクト」を展開し、農福連携や地域食材PRを通して、地域課題である共生社会の実現に尽力したいと考えた。

取組内容

- 伊予市内の福祉団体、ほっとネットいよしと連携し、高齢者や障害がある方と「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催。
- 農福連携を進めている株式会社和光ワールドと連携して、米・きくらげ・大豆を栽培し、商品・ランチメニューを企画。
- 愛媛県伊予市都市総合文化施設ウエルピア伊予とバイキングメニューの考案やウエルピア農園を管理。

活動の効果

- 学生が地域食材使用のスイーツを考案し、調理や盛り付けを行い、高齢者・障害者スタッフにカフェでの接客を担当してもらうことで、生き生きと仕事をもらう環境を生み出している。
- 青森県の八戸協和水産株式会社と農福連携商品の企画・製造を協議し、レトルト食品の販売が決定した。

応募団体からのアピール・メッセージ

伊予市は令和3年度から8年度までの6年間、伊予市第3次障がい者計画を策定しており、「共生社会の実現」を目標にしている。企業や地域の施設と連携を図りながら、農福連携と地域食材PR活動を通じた共生社会の実現に尽力し、地域課題の解決に努めている。

住所・電話番号・SNS等

伊予市下吾川1433 Tel:089-982-1255

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人いりこ倶楽部

くらぶ

～四国中央市産「いりこ」で、街を元気に！～



福祉就労施設での製造の様子



いりこ酵母パン

経緯

- 四国中央市の活性化のため特産品である「いりこ」に注目し、地域の事業団体と連携した商品開発を行うこととした。
- 家庭の食卓から「いりこ離れ」が進んでおり地場産業である「いりこ」が再注目・活性化することを目指し活動することとした。

取組内容

- 「いりこ酵母パン」を新開発。
- 製造・販売は地元の福祉就労施設と連携し、障がい者の新たな雇用創出。
- いりこの水揚げから加工の現場にいたるまで各種関連施設を巡る、食べて・学べるツアーを開催。
- 親子向けに「いりこ飯をつくって食べる会」を実施。
- 地元の高校でいりこの特別授業を実施。

活動の効果

- 「いりこ酵母パン」を基点とし「いりこ」そのもののみならず、「新たな食べ方」を提案・情報発信することで、生活者にとってより身近で親しみやすいブランド化に寄与。
- 障がい者の新たな雇用創出にもつながる仕組みの構築に寄与。
- 街の産業振興と地域活性化に寄与。
- 地元高校での特別授業実施により次世代の地元産業の理解促進と地域振興に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は「いりこ酵母パン」を起点としながら、地元事業者とさらに連携を強化し、地域の活性化につとめていく。

住所・電話番号・SNS等

四国中央市川之江町2529-34 Tel:0896-56-7777

おくませかわそうせいかいぎ
 奥松瀬川創生会議

～希望の田舎 奥松瀬川～



手芸部の商品の共同製作



ツリーハウスで音楽祭

経緯

- 中山間地にある一般的な農村であり、地域住民の高齢化に伴って「耕作放棄地の拡大」や「地域コミュニティカの減退」等の課題を抱え、年々衰退するばかりであった。
- そこで、子育て世代が定住したくなる地域づくりを目指して活動することとした。

取組内容

- 交流拠点「ほっこり奥松」をオープンし、得意分野を持つ会員により教室を立上げた。
- 交流拠点の建設を皮切りに、平成28年度から「夏祭り」を復活。平成29年度には交流拠点にて「山の音楽会」を開催。令和元年度からツリーハウスを利用した「ツリーハウス音楽祭」に変化させ開催。令和2年度から動植物の調査及び子育て世代の交流のための「自然観察会」を開催。

活動の効果

- 交流拠点「ほっこり奥松」と交流農園「ぽんぽこ農園」を軸に交流人口及び関係人口が大きく拡大し、子育て世代の移住も継続的に実現している。
- 約1haの耕作放棄地がぽんぽこ農園の利用者によって解消される。
- 観光交流事業開始後、Uターンや移住者が増加し、平成28年度には4人まで減っていた乳幼児人口が令和5年度現在は12名となっており、子育て世代が増加している。

応募団体からのアピール・メッセージ

帰ってきたくなる故郷になるべく、観光交流事業に加えて主産業である農業や豊かな自然を活かした収益性のある産業を育てて、地域で生きていける環境を整えていきたい。

住所・電話番号・SNS等

東温市松瀬川1876 Tel:050-1239-1606

もりた まさし
 森田 将史

～人の繋がりが作る活力はとても力強い～



梨園



ドライ商品

経緯

- 奥松瀬川地区の地域おこし協力隊に着任し、任期中は観光交流事業に携わった。
- 退任後(令和元年度)に農業及びマネジメント業で起業。観光交流事業には集落支援員に着任することで継続的に関わりつつ、農業を中心とした地域活性化活動をスタートした。

取組内容

- 【観光交流事業】交流人口拡大を目指して交流拠点及び交流農園の建設・運営。
- 【梨園の事業継承】廃園予定になっていた梨園を継承。規格外の梨をドライフルーツとして商品化。
- 【地域の事務局】中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金及び農山漁村振興交付金の各種事務手続きを請負い、地域住民と共に地域活性化事業を推進。

活動の効果

- 交流農園は、ネットを中心に利用者が増加し交流人口は年々増加おり、利用者の中から奥松瀬川地区へ移住・就農する人や半農半Xという形での就農する人が現れる。
- 廃棄となっていた梨をドライフルーツとして商品化し、食品ロスの削減を目指している。
- 地域住民と共に地域活性化事業の取組がきっかけで子育て世代が地域に戻ってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落支援員に任命され農村RMO、農林業の地域活性化事業に取り組み、水稻以外の特産品開発に取り組んでおり、過疎化した地域で粗放管理をし農地を維持しつつ、新しい地場産業を作っていくたい。

住所・電話番号・SNS等

東温市松瀬川1409 Tel:080-1437-9862

いっばんしゃだんほうじん
ないぶ
一般社団法人ゆりラボ内ホップ部

～やった事ない事は面白い！広がるホップ栽培～



久万高原町のホップ畑



初回及び第二弾のクラフトビール

経緯

- 久万高原町には観光客が多く来るが、お土産の商品が少なく売り上げに繋がっていないと聞き、人を呼び商品購入のきっかけになる商品が欲しいと考えた。
- 地ビールが委託醸造できる事を知り、冷涼な高原の町でビール主原料のホップが育つ可能性を考え、令和3年に栽培実験を行った。

取組内容

- 令和3年、町で商業的に栽培実績のなかったホップ栽培を、農業ミッション担当の地域おこし協力隊員に依頼。
- 令和4年、町内農家から協力申出があり、3人の農家がホップ栽培を開始。
- 令和4年及び5年、町内の元酒蔵で使われていた酒米「フクヒカリ」と町内産ホップを100%使ったクラフトビールの製造を、松山市のクラフトビール醸造所に委託し、販売。

活動の効果

- 初回商品1,050本の瓶を1か月で売り切り、購入目的で町に来てくれた人もいた。
- 令和5年、第8回いよぎんビジネスプランコンテストでシード部門賞受賞。
- 活動が松山市の醸造家の目に留まり、町がホップの産地となるよう、安定供給できるまでの間、高価格で全量買い取りしてくれる事になった。
- 売り先があることでホップ栽培に興味を持つ人も現れ、計8人の農家がホップ栽培を行うことになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

ホップの収穫体験の商品化を愛媛県観光物産協会や旅行会社と協力して目指している。いずれは、町で収穫体験をした後、道後で温泉に入り、当町産ホップで造られたビールを飲んで貰えるようになればと考えている。

住所・電話番号・SNS等

上浮穴郡久万高原町久万349-1 Tel:0892-27-4086



特別賞

あさひきょうはんかぶしきかいしゃ

朝日共販株式会社

～小さなしらすで地域を守る！～



しらす漁



藻場礁設置

経緯

○しらす事業は地域の重要な地場産業の一つでありながら、漁業従事者の高齢化や人手不足、後継者の担い手不足が深刻になっている。私たちはこの地域を守るため、この資源(イワシ稚魚)を活用し、地域の雇用の創出や活性化のための複合的な活動を行うこととした。

取組内容

- フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。
- バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。

活動の効果

- 売上高は、約11億円(平成17年度)から約82億円(令和4年度)に増加。また、伊方町観光交流拠点施設等の集客数は、約3万人(令和元年度)から約25万人(令和4年度)に増加。
- 輸出額は、約300万円(令和3年度)から約900万円(令和4年度)に増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の片隅の、小さな漁村から、日本の漁業を変えようと思います。もともと「漁師ってカッコいい」という若者もきっと増えると思うのです。日本の片隅の、小さな漁村から世界に挑戦しようと思います。

住所・電話番号・SNS等

西宇和郡伊方町川之浜652-1 Tel:0894-53-0776

えひめけんりつみなみうわこうとうがっこう のうぎょうか かじゅせんこうはん

愛媛県立南宇和高等学校 農業科 果樹専攻班

～GAP×低樹高～未来につながる栽培を始める～



かんきつでは高校生初のGGAP認証を取得



せん定講習会を行い説明を受けている様子

経緯

- 平成30年4月、国際的な視野を持たせながら果樹栽培に取り組み、地元特産品の新たな可能性を生み出したいとの考えから、果樹専攻班を中心にかんきつでは高校生初のGGAP認証を取得。
- 低樹高栽培は、作業がしやすく、労力を著しく軽減する持続的な栽培環境を構築できるのではないかと考え、研究を開始。

取組内容

- GGAP認証を取得した年度から、GAPの基本的な考え方・実践を身に付けるため、全学年で行われる総合実習の時間でGAPの指導を本格的に開始。
- 樹の高樹高化による作業負担の増加という大きな課題に対し、低樹高化による作業効率の向上と果実の高品質化が可能な栽培法として、低樹高高品質栽培法を地域の農家へ普及する取組を行う。

活動の効果

- 農業科全体でGAP活動を実践することで、先輩方の活動が引き継がれ国際的な視野が高まるなかで、地域の後押しもあり輸出を考える声も出てきている。
- 低樹高栽培に適したせん定技術を取り入れた結果、生果として出荷した正品率は63%から70%以上となり、過去3年間で最も高い割合となり、果実の品質を向上させることができた。また、作業効率の向上と省力化につなげることができ、作業時間の大幅な短縮に成功した。

応募団体からのアピール・メッセージ

GGAP、低樹高栽培そしてドローンによる園地の状況把握の手法を地域に広げることが目標です。地域で後継者を育て、地域に足を運んでくれる人を増やし、持続的な河内晩柑栽培ができるよう、私達高校生が地域の未来をつないでいきたい。

住所・電話番号・SNS等

南宇和郡愛南町御荘平城3269 Tel:0895-72-1241

えひめけんりつみなみうわこうとうがっこう のうぎょう

愛媛県立南宇和高等学校 農業クラブ

～F(ファーム)F(フィッシュ)プロジェクト～



かんきつと魚のコラボ商品「愛南ゴールド真鯛」



ウルメイワシの缶詰「イワシンボル」

経緯

- 町内の農業従事者が減少し、生産量日本一を誇る愛南ゴールド(河内晩柑)も危機となり、なんとか解決していく方向はないかと検討し、オリンピックの食材提供基準であるGGAP認証取得に挑戦。
- 高齢化、若者の流出、農林水産業の衰退など、町の課題に対し高校生の力で解決する。

取組内容

- 令和元年、オリパラのホストタウンとしてGAP食材を使ったおもてなし企画をモザンビーク選手団に実施し、令和3年8月、愛南ゴールドをオリンピック選手村に提供。
- 本校GGAP愛南ゴールド(河内晩柑)とMEL認証の養殖真鯛がコラボし、「愛南ゴールド真鯛」を商品開発し、PR活動を行う。
- 広島県福山市の漬物業者とコラボし、養殖魚の餌となっているウルメイワシを使った缶詰「イワシンボル」を完成。

活動の効果

- 高齢化率46.5%と高齢化が進む町は、若者の流出、基幹産業である農水産業の衰退など課題は山積しているが、四国唯一の農業科として高校生が主体となってPR活動を行い、町に活力を与え、多くの人を動かしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「愛南ゴールド真鯛」や「イワシンボル」など、地域資源を使った自慢の商品で、今後は世界進出を目標に頑張ります。

住所・電話番号・SNS等

南宇和郡愛南町御荘平城3269 Tel:0895-72-1241

記念賞

えひめけんりつうわじますいさんこうとうがっこう すいさんしょくひんけんきゅうぶ

応募 愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」

県産魚PR活動 ～フィッシュガールの挑戦～



現在活躍するフィッシュガール



監修した商品の対面販売

取組内容

- 産官学連携の下で女子生徒による養殖クロマグロの解体ショーや県産魚を利用した加工品開発、実演販売を通じ、愛媛県で養殖された魚(愛育フィッシュ)をPR。
- 校内での商品製造に加え、地域の協力企業が製造販売する商品を開発(監修)。
- 実習製品の海外輸出。

前回選定後の情報発信の取組

- 活動報告や、解体ショーの宣伝などをSNSに投稿。投稿件数は、令和元年度46件、令和2年度0件、令和3年度4件、令和4年度40件、令和5年度23件。
- Instagramフォロワー登録者数は約500人(令和5年12月18日時点)。
- 「Eテレ 沼にハマってきいてみた」、「NHK 発見! くらべる学校百景」、NHK松山放送局「ハイスクールめぐり」出演、ほか、ニュース番組等に多数出演。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- マグロの解体ショーは、コロナ禍による実施件数の低迷から回復し、今年度はより多くの実施を見込んでいる。また、これまでの女子生徒による実施に加え、本年度は男子生徒の希望者もあり、現在準備中。
- 製品の開発、販売は、前回応募時までは校内製造製品の開発が主であったが、コロナ禍を転機に地域の協力企業によって製造、販売される商品の開発(監修)を行い、国内外で販売活動を実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の良さや地域の産業に愛着を持つ若者を育て、育った若者が、地域の担い手になるという良い構図が確実に生まれつつあります。これからも地域に誇りや愛着を持つ若者の育成を図り、地域に貢献できる人材が生まれることを目指します。

住所・電話番号・SNS等

宇和島市明倫町1-2-20 Tel:0895-22-6575

記念賞
 応募

えひめけんりつみさきこうとうがっこう

愛媛県立三崎高等学校

～四国最西端から最先端の活動を！～



3代目みさこうCafe



みさこう！のさあいこー！なマーマレード

取組内容

- 高校生が主体となる地域の魅力開発及び発信により、伊方町の関係人口の増加と移住・定住者数の確保に貢献。
- 全校生徒をPR、カフェ、商品開発、ツアー、アート、防災の6つのグループに分け探究活動を実施。

前回選定後の情報発信の取組

- Facebookによる情報発信に取り組み、令和3年年12月の1,000名のフォロワーから、現在は約1,400名のフォロワーを獲得。
- さらなる情報発信を目指し、令和4年9月にInstagramで公式アカウントを開設し、現在約520名のフォロワーを獲得。
- Instagramでは写真を中心とした即時的な情報を、Facebookでは写真に加えて動画も活用して量の多い情報を発信。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- みさこうcafeは、レストランでの通常営業に加え、交通の便が悪く来店が難しい地域住民のために出張営業を行ったり、地域イベントに出店したりすることで、多くの人に利用されている。また、地域の方々との交流の機会が増えたことにより、「みさこう郷土芸能」のような「café×○○」という新たな地域づくりの形が生まれてきている。
- 本校が世界マーマレードアワードで金賞を受賞したレシピを基に、地元企業と連携して「みさこう！のさあいこー！なマーマレード」という名前で商品化し販売中。

応募団体からのアピール・メッセージ

温故知新。これまでも地域にあった宝に高校生ならではの新たなアイデアで光を当てることによって、この町にしかない新たな宝が生まれている。今後も地域の宝を、地域という宝を輝かせられる活動を続けたい。

住所・電話番号・SNS等

西宇和郡伊方町三崎511 Tel:0894-54-0550